

第2期勝山市子ども・子育て支援事業計画(案)にかかるパブリック・コメント意見一覧

連番	該当ページ	意見	市の考え方	計画への反映
1	P27	<p>仕事復帰による入園については、仕事復帰2週間前から慣らし保育が利用できるが1カ月前からにしてほしい。子どもが保育園に慣れるまで、母親も仕事をせず自宅にいたい。福井市などは仕事復帰1カ月前に入園が可能であった。ちょうど、入園1カ月頃に風邪をもらいやすく、仕事復帰後すぐには仕事が休みにくい。</p> <p>①保育の利用期間について</p>	<p>新規入園時、お子さんは家族を離れ、初めての友だちや先生と過ごすことになるので、不安な気持ちを抱くこととなります。慣らし保育は、そんなお子さんのために園にいる時間を増やしながらか園生活に慣れていくことで、少しでもストレスを軽減させ、負担をなくすことを目的としています。</p> <p>当市においては、保護者の就労開始日の2週間前から慣らし保育として入園することができます。その期間以前に、お子さんを園の環境などに慣らししていくことと同じような役割を担うサービスとして、園での一時預かりや子育て支援センターを設けていますのでご利用ください。また、お子さんが病気で家庭での保育が困難なときは病児保育をご利用ください。</p>	修正なし
2	P45	<p>一時預かりを全ての園で実施してほしい。上の子が通う園で一時預かりサービスがないと下の子を別の園に連れていくことになるので送迎が大変。また、上の子の園に行けると安心できるし、今後、通うときにも子どもが知っている環境だと慣れるのも早いし、親も先生や保育園を知っているため頼みやすい。</p>	<p>一時預かりは平成26年度に3園で実施していましたが、平成28年度は4園、平成30年度は5園、令和元年度は市内全11園中8園まで実施する園が増えてきました。これまで増えてきた背景には、私立7園が保育園から認定こども園へ移行した際、地域の子育て支援を充実させるため、一時預かりに積極的に取り組んできた経緯があります。</p> <p>しかしながら、近年は市内各園だけでなく全国的に保育士の確保が困難になってきていることや少子化により園を取り巻く状況が刻々と変化してきていることから現状を維持することに努めるとともに、今後のあり方について調査研究します。</p>	修正なし
3	P50	<p>一時預かりに対応する園が少ない。上の子と下の子を別の園に連れていかなくてはいけないことがある。</p> <p>②一時預かり(一般型)について</p>		
4	P46	<p>成器南幼稚園について、成器西小学校や成器南小学校への入学は、連携しているためスムーズにいくと思うが、その他の小学校への入学予定の園児のためにも十分な連携してほしい。</p> <p>③幼稚園と小学校の連携について</p>	<p>市では、幼稚園・こども園・保育園と小学校の円滑な接続のため、保幼小連携推進カリキュラムに基づき、近隣の園と小学校を指定して交流活動を実施しております。就学前の幼児が小学校の活動に参加し学校の雰囲気や味わうことや、幼児と児童が交流することは、幼児の就学に対する不安を減少させるために大変効果と意義のある活動です。なお、特に幼稚園やこども園の園児についてはこうした交流を行う小学校と実際に就学する小学校が異なるケースも少なくありませんが、小学校における活動は学校間で大きな違いはなく、どの小学校においても必要な経験が得られると考えられます。</p> <p>こうした幼児の交流活動とは別に、幼児の成長過程等については個別に園から小学校に提供されており、小学校ではどの園の卒園児についても同じように把握できるよう連携しております。</p> <p>園でも園外活動としてそれぞれの小学校を訪れるなど何らかの交流を図ろうと努力しておりますが、就学についてご心配・ご不安がある場合は就園先の教諭にご相談ください。</p>	修正なし
5	P48 P51	<p>閉園した中部幼稚園を利用して土、日、祝日も開かれる子育て支援センターのような室内遊びができる場をつくってほしい。また、北郷町に公園がほしい。</p>	<p>現在、土、日、祝日に遊ぶことができる屋内施設として、市民交流センター内に子育て支援センター「カンガルーのお部屋」があり、平日のほか、月に1回、土曜日に開設しています。また、勝山市体育館ジオアリーナでは個人の当日利用(有料)が可能です。図書館では読み聞かせやお子さん向けのイベントを随時開催しています。このほか、土、日、祝日における市内公共施設の開設について今後検討していきます。</p> <p>また、公園の中で比較的規模の大きい市が管理する中央公園などの都市公園については、長寿命化計画に基づき損傷の著しい遊具の改修を最優先で実施しています。人口や施設利用者の減少及び公共施設の統廃合の流れの中、今後は既存施設の活用について検討していきます。</p>	修正なし
6		<p>土日に親子で過ごせる場所が少ない。支援センターの土日開設を増やす、閉園した幼稚園を開放するなどしてほしい。</p> <p>④子育て支援センター等について</p>		
7	P54	<p>インフルエンザ予防接種の料金を高齢者の方々と一緒にしてほしい。</p> <p>⑤インフルエンザ予防接種の助成について</p>	<p>これまで子育て家庭への経済的な支援として、インフルエンザ予防接種費の助成、子ども医療費の助成や児童センター利用料無料のほか、昨年9月からは保育料の無償化がはじまるなど、あらゆる視点からさまざまな支援を行ってきました。</p> <p>今後も子育て家庭の環境の充実を図るため、インフルエンザ予防接種費の助成を含め、より効果的な経済的支援の拡充を検討していきます。</p>	修正なし
8	P70	<p>市内の給食だよりを見ると大手メーカーが製造している市販のお菓子を普通におやつに出している園がほとんど。添加物や遺伝子組み換えの食べ物ばかり。調味料や食材も業務用で、これだけアレルギーの子や障害を持つ子が少子化にも関わらず増えているのに、どの園も重要視していないことに疑問を感じる。TPPも可決されゲノム編集の食材もこれから入ってくる。韓国ではほとんどの学校給食が無償かつ有機栽培の食材になった。長野県真田町でも食を変えたり、新潟県の三条市でも「牛乳抜き完全米飯給食」を実施している。食は全てに通じる。もっと食に対しての危機感を持ち、何らかの対策してほしい。</p> <p>⑥食の安全等について</p>	<p>現在、市内一部の園において、ひと月に数回の頻度でおやつに市販のお菓子を利用しているケースが見受けられます。各園の調理関係者は、管理栄養士等から、食物アレルギーに関わる食材の成分をはじめ食品添加物についての研修等を受講しています。調理関係者が添加物食品に関心を持つことは、お子さんの健康を守っていく上で大切なことであり、研修内容をさらに充実させるよう今後も努力していきます。また、規則正しい食生活や栄養バランスを心がけることの重要性、地産地消により旬の食材を味わうことなど、食の大切さや楽しさを周知啓発していきます。</p>	修正なし